

蓬萊町だより

会部 町化 蓬文 蓬文
号 15日 7月 13年
第 六 十 号
成 行 者 編 集 者

『私本、下谷天王寺五重塔炎上』

日本隨筆家協会々員 上野 静

K専務の家邸は桜並木の続く下谷霊園の中心部に当る天王寺境内の五重塔と相対峙していた。

K専務が務める大谷商事k.kが建てたアパートである。天王荘と名付けたのは名刹、天王寺の縁起を担いだものだった。

その後、専務は天王荘を買い取って修理、改造し、三層の垢抜けたわが家としたものだった。下谷高台の建物で風光明媚、檜、松、椎ノ木の大樹や雑木林に包まれた緑の園だった。その中に五重塔が天空高く聳え立ち、明治の文豪、幸田露伴の描く豪壯優雅な五重塔で「洛陽の紙価」を高め、江戸、東京の名所となり、市民のシンボルともなったのである。高台の眼下は省線電車（現在のJR山手線）が走り、その先に展開する広大な平野部は当時、家はマバラで殆どが農家で、帯が茶畑や蓬々たる草原で日暮里村、荒川村、町屋村方面が一望に眺望できる美しい田園風景だった。

京子はこのな風情のある美しい環境の中で育ったK専務の一人娘だった。

何名かの幼な馴染みの幼児と共に素晴らしい五重塔を見上げて遊び、育ってきたのである。シンブルで気立ての優しさはこんな環境の中で育まれたセイだったのかも知れない。

荒川の旧制、育英高等女学校を卒業したが終戦直後のことで特定の就職先もなかったので父専務の秘書役のような形で気候にフリーターで勤務していた。

大谷商事k.kは当時、下谷区根津下町に事務所を設けていた。事業内容は貸家業で当時、市内各所に貸家、アパートなど併せて百有餘軒を所有、その後も安価で要所の土地を求めては限りなく増築を進めて行つた。

創業は大正五年頃で社長の大谷氏は東北、秋田県の貧農の家に生れ、青雲の志を立てて上京、十年程、丁稚奉公を勤め、某しかの資金を手にし、一軒の貸家の建築から始めたのだった。当時（終戦直後）従業員は七く八名（一般事務、集金、企画、補修等を担当）とそれに給仕の平吉一人を加えたメンバーだった。平吉は小学校を出るとそのまま、奉公に入ったもので両親、兄妹もいない孤児同然でK専務はその環境を哀れみ、手塩にかけて育てたのである。

その後、会社では、集金、補修その他の業務の促進上、自家用自動車を買入れたので

ある。この時、専務は平吉に自動車の運転を身に付けさせ、給仕兼運転手としたのだった。その中、一人娘の京子が幼稚園に入り、その送迎も受け持つことになったのである。

その時、平吉二十才、京子は可愛げのある園児だった。平吉は可愛がって、時間があると付近をドライブして京子を喜ばせていた。

そんなことで京子は「お兄ちゃん、お兄ちゃん」と言いつて懐いていた。そして何時も決つて近くの五重塔の階段付近にいる京子の幼な馴染みの幼児達に加わり遊んでやつた。

平吉は京子が大きくなって女学校に入つても送迎を続けていた。平吉は年と共に美しくなる京子を見る目が血走つてきた。

やがて、前記の通り、京子は女学校を卒業するとK専務の秘書役で勤めることになった。

平吉は京子の送迎の勤めがなくなると毎日のように仕事の合間をみて京子をクルマに乗せ、二く三〇分ほど、ドライブを楽しんだのである。平吉はスツカリ、色香の漂う美人になった京子に魅せられ、秘かに恋心を抱くようになった。京子は幼稚園時代から可愛がられたお兄ちゃんと呼ぶような関係だったので平吉の意のままになっていた。

某日、こんな状況を秘かに目にしたK専務はハーツとして一人娘の危機を感じ取つたのである。

平吉は既に三十三才、京子は十八才。

三〇男が少女を手玉に取る位いのことは赤子の手を振るようなものだった。況て平吉と京子の場合には京子の幼稚園時代から始まっているのだ。

K専務はこのまま、放置すれば取り返しつかない事態に至る虞があると判断、急速、各アパートの管理人達に呼びかけ、婿選びを交渉した。みんな協力して忽ち十名近くを集めてくれた。中には東大、W・K大出身で財閥系一流企業のサラリーマンもいるという豪勢さだった。

K専務はこの中からW大出身で三井製紙のエリート社員を選び、取り敢えずお見合いすることを決めた。平吉は兼ねてからK専務の唯々ならぬ動きと雰囲気に関子の結婚話が進められていることを敏感に悟っていた。

平吉はそれを見越して早くから先手を打って京子に言い含め、京子もまた、幼い頃から懐いているので平吉に身を任せていた。

も早、二人は抜き差しならぬ線まで進んでいた。某夜、京子は父から高学歴で一流企業のサラリーマン紳士と見合いが決まったと聞かされた。その上、紳士は「お前の写真で大変気に入ってくれている。明日、帝国ホテル『風の間』でお見合いすることになっている。お父さんとお母さんと三人で出かけよう」。専務はもう総てが既定事実のように言葉を並べて京子に伝えたのだった。

京子は平吉と既に固い約束が交わしてあるという事実は秘し、平吉の指示通り、父母に従うことにした。

帝国ホテルの「風の間」は金屏風を背景に眩しいほど、シャンデリアが輝き、軽音楽が流れ、情緒豊かなお見合いの場だった。サスガの京子も夢のようなメルヘンの園に遊ぶような雰囲気魅せられた。

候補の紳士はサスガ一流企業の社員らしくスラリとした稍々長身で顔立ちも品位があり、ソツのない振る舞いで話はスムーズでスマートな紳士だった。京子も両親の言葉に感じ、素直に受け応え何時もの可愛らしいスマイルも絶やさなかった。紳士は京子が気に入ったらしく笑みを湛え、満身で好意を表現していた。京子も一瞬、グラリと心が揺らいだ。しかし、ハーツとして我に帰ると平吉の姿が頭の中を掠めたのである。

その夜、両親は京子も気に入ったとみて満足気に「お前には勿体ない位いの人物のようだ。京子の気持ちはどうだネ」と迫った。

京子は両親に逆らえなかった。大変、立派な紳士に見受けましたが暫らく考える時間を貸して下さい」といつて結びは先送りした。

平吉は心配して京子に見合いの状況を聞いた。しかし、京子は平吉とはもう別れられなかった。二人は幼い頃から京子の幼な馴染みとよく遊んだ思い出の五重塔の階段に腰かけ

て相談した。

今の段階ではどうすることもできなかった。この際は京子が固い意志で相手ベースに巻き込まれないことを厳守、取り敢えず、仮面のパフォーマンスで付き合うことを示し合わせたのである。

紳士はスポーツカーを運転、彼女を助手席に乗せては銀座、新宿、池袋などの盛り場を乗り回し、レストランで食事を済ませ、帰りには必ず、お土産を持たせてくれていた。紳士は京子がスツカリお気に入りらしく、映画館やダンスホールなどにも誘ってくれた。京子の心に紳士の真剣な純愛がエレキのように伝わってきた。

京子は悩みに悩み、心が揺れに揺れた。しかし、その都度、平吉の心配顔のイメージが頭に浮かんで消えて行った。サスガの京子も紳士の真剣な真心に打たれ、申し訳なきに錯乱し、動転しそだった。京子の我慢は極限だった。これ以上、仮面を冠ったパフォーマンスを続けければ天罰を受けるに違いないと泣きながら平吉に縋った。

某日、紳士はK専務に「大変立派なお嬢さんだ。是非、結婚させて下さい」というプロポーズだった。



(以下次号へ続く)

町会活動の概要

平成十三年三月中旬から
平成十二年六月下旬まで

総務部

- 4/25 平成十二年度会計監査
- 5/5 根津神社つじ祭り警備
(追分町会と合同)
- 5/27 青少年対策委員会「餅つき大会」
於、誠之小学校
- 6/16 定期総会 於、かねこ
(中島・藤井・蘭田、出席)

婦人部

- 3/8 リサイクル工場見学会
- 3/16 日赤向ヶ丘分団班長会議
- 3/28 駒込母の会々議 於、駒込警察署
- 3/31 春の交通安全の集い
於、地域センター
- 4/10 自転車の安全利用・マナーの指導
- 4/25 つじ祭り、甘酒茶屋手伝い
(十六名参加)
- 5/1 日本赤十字社 募金
二七一軒、一九六、〇〇〇円
ご協力有り難うございました。
- 5/10 日赤奉仕活動 於、くすの木の郷
- 5/22 定例部会・総会

交通部

- 3/30 駒込警察署長歓迎迎会
- 3/16 駒込安全協会周年行事用写真撮影
- 4/6 春の交通安全運動(六日〜十五日)
- 4/25 春の交通安全運動に対して、蓬萊町
会が、「感謝状」を受ける。
- 5/21 駒込安全協会定期総会

防火防災部

- 3/1 災害時避難所運営訓練ビデオ観賞
勉強会 於、町会長宅
- 3/11 災害時避難訓練所運営訓練
於、駒本小学校(十八名参加)

防犯部

- 3/9 駒込防犯協会全体会議
於、駒込警察署
- 3/19 春の地域安全運動『ピッキング使用
侵入盗注意』のチラシ配布
- 5/25 駒込防犯協会 定期総会

文化部

- 3/30 「蓬萊町だより」五九号 発行配布

計報

当町会の方で平成十二年十一月〜十三年三月初旬にご逝去された方は左記の通りです。謹んでご冥福をお祈りいたします。

金子 忠康 様(七十才) 向丘二十一―二

蓬萊句壇

- 朝焼けの浜に沖見る泊まり人 青木 沛寿
- 和田塚に霊気充ちいる卯月かな 小野 向雪
- 水鉄砲飛ばせば街頭点滅す 岡田 栄子
- 傘雨忌や余命指折る暇のなく 金子 卿雨
- うつき咲く何時かは闇夜青内障眼 津久井たかを
- 菖蒲湯で菖蒲はちまき幼き日 金子 卿雨
- 銭湯の富士の絵に撃つ水鉄砲 彦坂つぐを
- 花みずき学校給食始まりぬ 福山 七重
- 嬌声は出会いがしらの水鉄砲 船橋 小糸
- 憂きことはさつぱり忘れ夏きたる 池田 連木
- 朝焼けやいまも旅立つ芭蕉像
- 春ふかし三橋鷹女の像にあ遇受ふ
- 苗代の静かに水の動きかな
- 見境もなく浴びせけり水鉄砲
- 勝った子も濡れて帰るや水鉄砲
- 車椅子に乗る人押す人花疲れ
- 魚ねらふ小瀬な野良に水鉄砲
- 花疲れ花より人に酔いて候



蓬 萊 町 会
平成 12 年度収支決算報告書
 決算期間、平成 12 年 4 月 1 日から平成 13 年 3 月 31 日まで

(単位：円)

収 入 の 部			支 出 の 部		
勘定科目	金額	摘 要	勘定科目	金額	摘 要
前期繰越金	1,112,965	現 金 356,572 預 金 756,393	総務部 渉外費	374,200	渉外費・慶弔費
町会会費	1,409,600		会議費	264,687	総会・定例会・部長会
区助成金	682,632	町会助成金 223,132 リサイクル 298,400 区報配布 161,100	担当 備品費他	186,026	通信連絡費・事務費 友の会助成・消耗品 他
預金利息	762		防火防災部費	96,722	
雑収入	108,826		防 犯 部 費	25,507	
			文 化 部 費	534,462	
			婦 人 部 費	411,948	
			青 年 部 費	0	
			交 通 部 費	48,145	
			衛 生 部 費	0	
			予 備 費		
			余 剰 金	1,373,088	次期へ繰越 1,373,088
合 計	3,314,785	今期実収入の合計 2,201,820	合 計	3,314,785	今期経費合計 1,941,697 実今期余剰金 260,123

防災積立金等残 ￥3,964,967

平成 13 年 6 月 16 日
 平成 12 年度決算を上記の通り報告いたします。

平成 12 年度決算は監査の結果正確に処理されていることを証します。

町会長 三宅英三
 会 計 竹中俊之
 監 査 川村康明

蓬 萊 町 会
平成 13 年度収支予算計画書(案)
 決算期間、平成 13 年 4 月 1 日から平成 14 年 3 月 31 日まで

(単位：円)

収 入 の 部			支 出 の 部		
勘定科目	金額	摘 要	勘定科目	金額	摘 要
前期繰越金	1,373,088		総務部 渉外費・慶弔費	500,000	渉外費・慶弔費
町会会費	1,400,000		会 議 費		総会・定例会・部長会
区助成金	530,000		事務連絡費	120,000	通信連絡費・事務費
			補 助 金	30,000	友の会補助金
			防火防災部費	150,000	
			防 犯 部 費	100,000	
			文 化 部 費	450,000	
			婦 人 部 費	400,000	
			青 年 部 費	30,000	
			交 通 部 費	70,000	
			衛 生 部 費	10,000	
			積 立 金	1,000,000	前期繰越金より積立金へ
			予 備 費	443,088	
合 計	3,303,088		合 計	3,303,088	

平成 13 年度予算(案)を上記の通り計上いたします。

編 集 後 記

「変人」の総裁が誕生した途端に世の中が変わった様です。『変人とは変革の人』などと言うメル・マガなども届いて、正に二十一世紀が始動したかに見えます。価格破壊があるかと思うと、銀座に開店した高級ブランド店で眼をみはるような値の品を買わなければならない。歴史は繰り返すこと云われていますが、変革の時代には思いも着かぬことが起こっています。ただ、小泉さんが好きだと言ふ「省事に如かず」つまり「無駄なことは止めよう」とのモットーは誰もが心に銘じて良い言葉と言えます。

編集委員 三宅栄三 竹中俊之 常岡 裕
 青木喜一 池田 暉

副会長	三宅 英三	交通部部长	本城 康至
会 長	橋本 明昭	副 部 長	中島 行雄
副 部 長	佐々木 孝一	防 災 部 長	大畑 清心
副 部 長	加藤 輛美	副 部 長	小林 一雄
副 部 長	堀江 廣明	防 犯 部 長	坂本 禎一
副 部 長	池田 秀男	副 部 長	堀江 頼治
副 部 長	竹中 俊之	文 化 部 長	青木 喜一
副 部 長	五十嵐 口出男	副 部 長	竹中 俊之
副 部 長	川村 康明	副 部 長	池田 暉
副 部 長	小川 義信	(蓬萊町だより編集委員)	
連 絡 委 員		衛 生 部 長	五十嵐 口出男
南 部	堀江 頼治	婦 人 部 長	藍原 紀久
中 部	川瀬 芳孝	副 部 長	室川 幸子
中 部	岡田 喜恵子	副 部 長	藤 関 芳江
北 部	川村 康明	副 部 長	三宅 秀明
北 部	五十嵐 口出男	副 部 長	加藤 美次
北 部	中島 行雄		